

第4回 岳北地域の高校の将来像を考える協議会 次第

日時：令和元年8月7日(水) 16:00～

場所：飯山市役所 4階 全員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 長野県の高校再編における岳北地域高等学校の存続形態について

(2) 今後の両校に望まれる学びの姿について（意見交換）

4 その他

・次回開催日程について 8 月 28 日(水) 午前10時～

5 閉 会

第4回 岳北地域の高校の将来像を考える協議会の進め方

第3回協議会結果

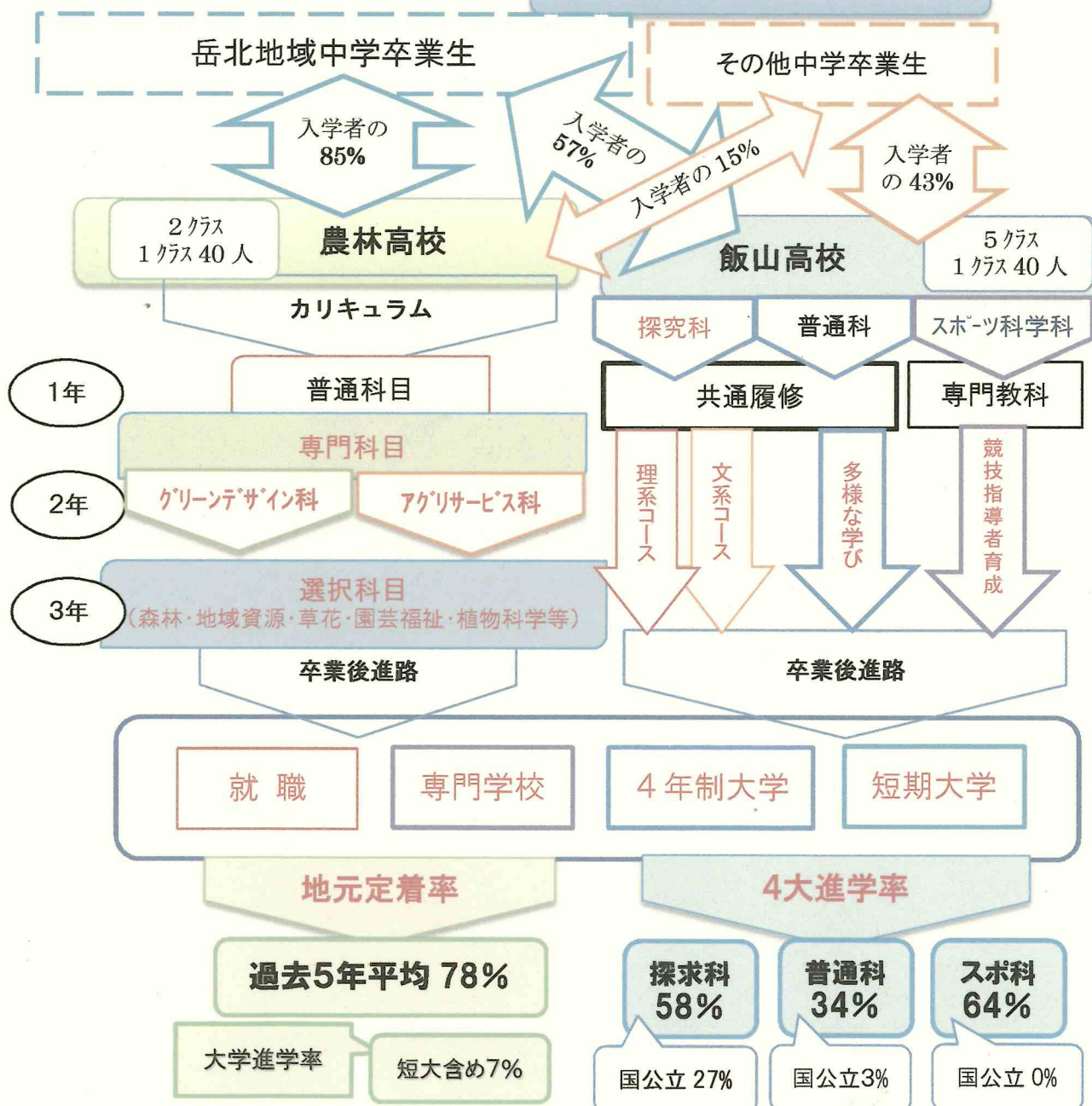
1点は、高校の形態について。一つは「地域キャンパス化（農林高校）」一つは「単独校」一つは「統合しそれぞれのキャンパス化」が考えられるが、内容とメリット・デメリット等の整理をして示してほしい。

もう1点は、カリキュラム等高校のあり方について、高校卒業後の出口をどう考えるのか。中学校卒業後の入り口としてどう対応するのか、今後、在校生・中学生の意見を聞きながら協議を進めていく必要がある。

第4回協議会の論点

両校存続の形態（別紙）【県から説明】

両校の将来のあり方



旧第1通学区「岳北地域の高校の
将来像を考える協議会」第4回会議
令和元年(2019年)8月7日

高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 旧第1通学区説明資料

長野県教育委員会

1

「高校改革～夢に挑戦する学び～」の アウトライン

社会の激変への対応

少子化への対応

新たな教育
の推進
(学びの質を充実)

新たな
高校づくり
(学びの基盤を整備)

2

改革の必要性①

社会の激変への対応

国(文部科学省)ベース

これからを生きる子どもたちに育てたい力

これからの
すべての学校で
育てるべき学力

真の学力

学力の三要素

かつての
学力のイメージ

狭義の学力

主体性を持って多様な人々と
協働して学ぶ態度
(学びに向かう力・人間性)

主体性
多様性
協働性

知識・技能を活用し
課題を解決するのに必要な
思考力・判断力・表現力等の能力

思考力
判断力
表現力等

基礎的な知識・技能

知識・技能

これまでの授業



講義型の授業

知識・技能を
間違えずに習得、
必要に応じて活用

これからの授業

主体的・対話的で深い学び
⇒“探究的な学び”



知識・技能を活用し、
正解のない課題に向き合い、解決していく

「探究的な学び」とは学習のプロセス

課題発見

課題解決

発表

プロセスを通して大切にされること

知識・技能の活用

仲間との協働

思考力・表現力・判断力

改革の必要性②

少子化への対応

長野県の中学校卒業生数(予測)

平成29年3月
20,754名

約 6,390減少
＜約 160学級分＞

令和15年3月
14,364名

適正規模・配置の検討

新たな
高校づくり

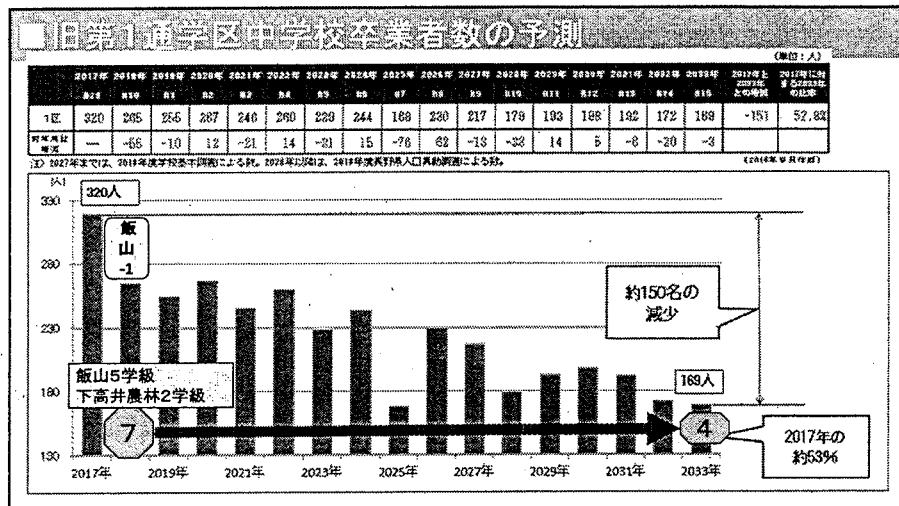
旧1通学区の中学校卒業生数の予測
(飯山市、木島平村、野沢温泉村、栄村)

平成29年(2017年)
320名

約150名
減少
(約4クラス減)

令和15年(2033年)
＜予測値＞
169名

平成29年の
約53%

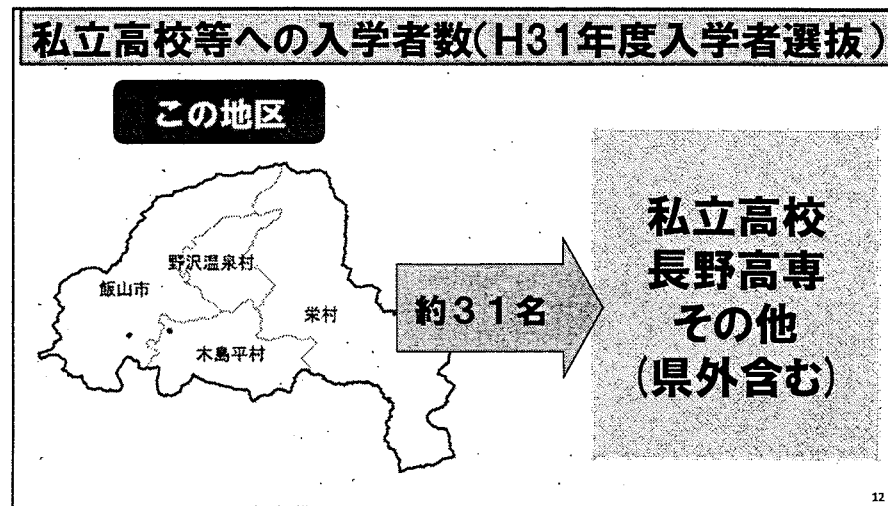
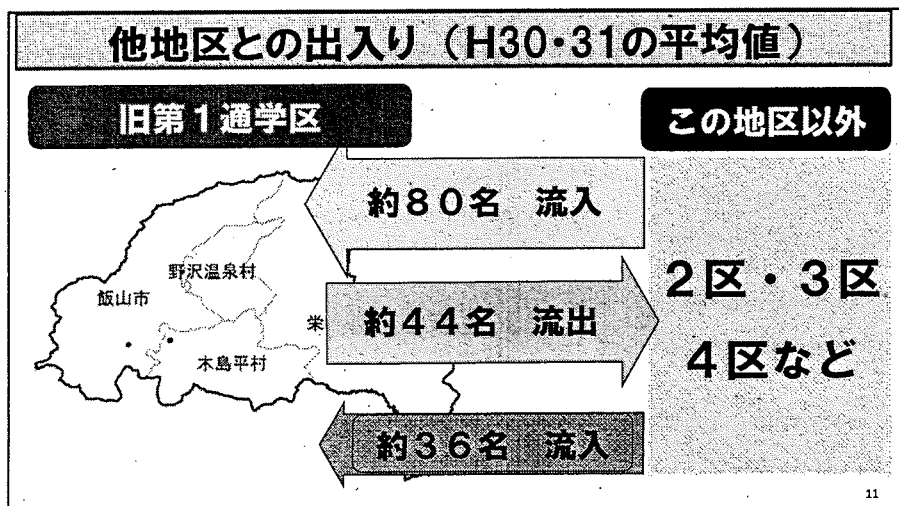


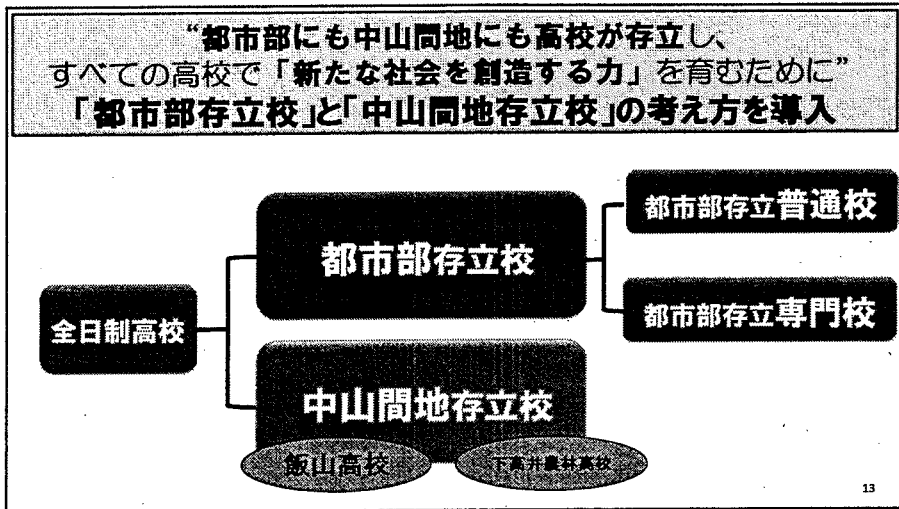
旧第1通学区の募集学級数

令和元年度

高校名	募集学級数
飯山高校 普通科	2
飯山高校 自然科学探究科	1
飯山高校 人文科学探究科	1
飯山高校 スポーツ科学科	1
下高井農林高校 グリーンデザイン	1
下高井農林高校 アグリサービス	1

令和15年には4学級になってしまう...





「中山間地存立校」の基準について		
	望ましい規模 (募集学級数)	再編対象
中山間地 存立校	3学級 以上	在籍生徒数120人以下、もしくは、在籍生徒数160人以下、かつ、卒業生の半数以上が入学している中学校がない状態が、2年連続 ① 他校との統合 ② 地域キャンパス化 ③ 中山間地存立特定校の指定 ④ 募集停止

「都市部存立校」の基準について		
	望ましい規模 (募集学級数)	再編対象
都市部 存立 普通校	6学級以上	在籍生徒数 520人以下、2年連続 ① 他校との統合 ② 募集停止
都市部 存立 専門校	3学級以上	在籍生徒数 280人以下、2年連続 ① 他校との統合 ② 募集停止

「中山間地存立校」の基準について		
	望ましい規模 (募集学級数)	再編対象
中山間地 存立校	3学級 以上	在籍生徒数120人以下、もしくは、在籍生徒数160人以下、かつ、卒業生の半数以上が入学している中学校がない状態が、2年連続 ① 他校との統合 ② 地域キャンパス化 ③ 中山間地存立特定校の指定 ④ 募集停止

■他校との統合（新たな高校をつくる）①

A高校					
3年	1組	2組	3組	4組	5組
2年	1組	2組	3組	4組	5組
1年	1組	2組	3組	4組	5組

B高校		
3年	1組	2組
2年	1組	2組
1年	1組	

中山間地存立校の
再編基準に抵触

■他校との統合（新たな高校をつくる）②

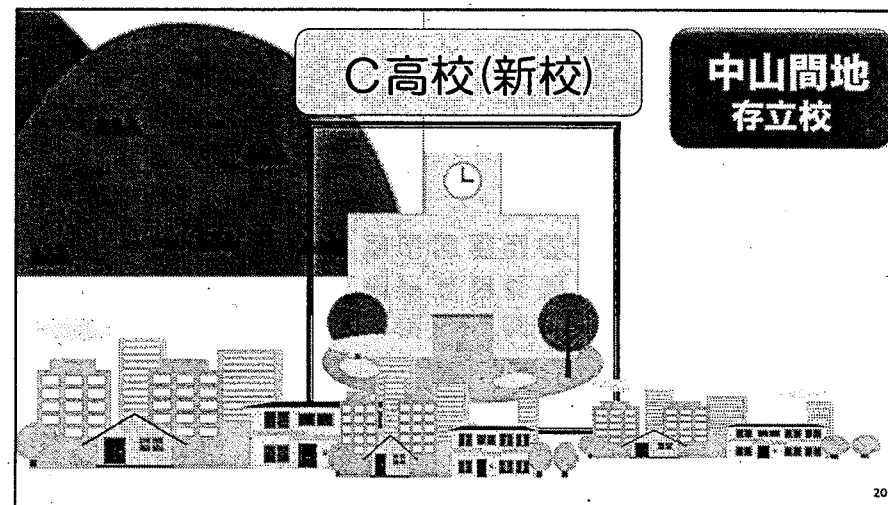
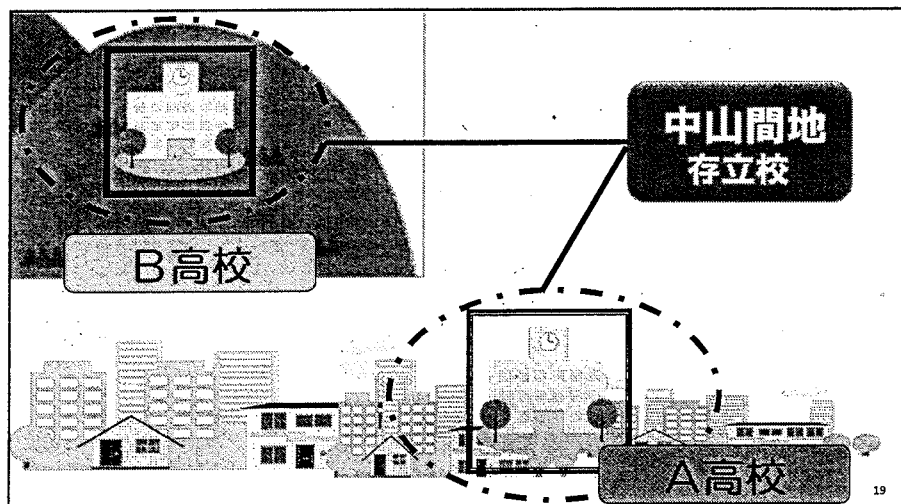
A高校					
3年	1組	2組	3組	4組	5組
2年	1組	2組	3組	4組	5組
1年	1組	2組	3組	4組	5組

B高校		
3年	1組	
2年	1組	
1年	1組	

統合

C高校（新校）						
3年	1組	2組	3組	4組	5組	6組
2年	1組	2組	3組	4組	5組	6組
1年	1組	2組	3組	4組	5組	6組

- ・学校目標
- ・新校名称
- ・新校章・校歌
- ・教育課程
- ・同窓会組織 等



「中山間地存立校」の基準について

望ましい規模 (募集学級数)		再 編 対 象
中山間地 存立校	3学級 以 上	在籍生徒数120人以下、もしくは、在籍生徒数160人以下、かつ、卒業生の半数以上が入学している中学校がない状態が、2年連続 ① 他校との統合(新たな学校を創る) ② 地域キャンパス化 ③ 中山間地存立特定校の指定 ④ 募集停止

21

■他校との統合（地域キャンパス化）①

A高校					
3年	1組	2組	3組	4組	5組
2年	1組	2組	3組	4組	5組
1年	1組	2組	3組	4組	5組

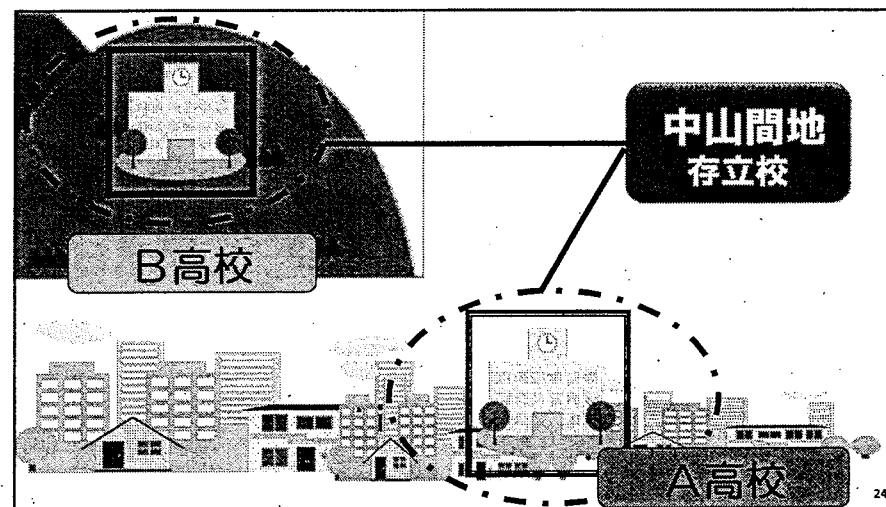
B高校		
3年	1組	2組
2年	1組	2組
1年	1組	

中山間地存立校の
再編基準に抵触

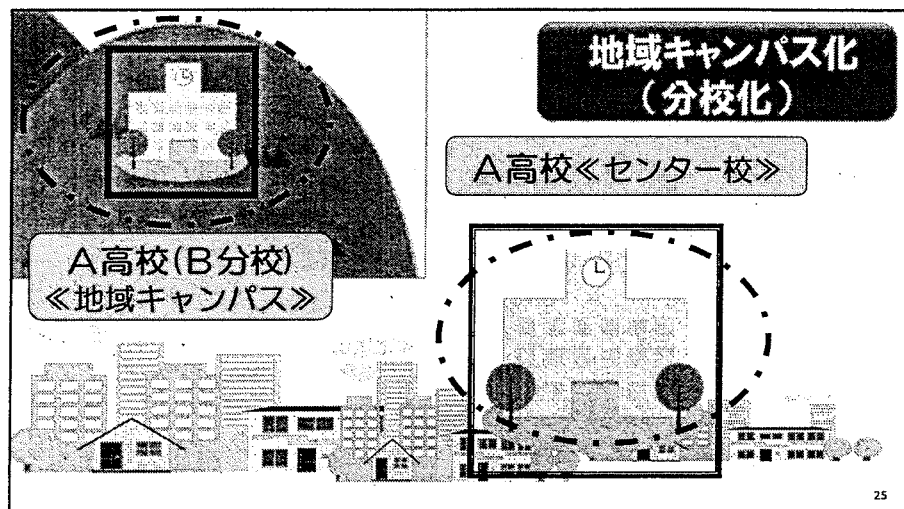
■地域キャンパス化（分校化）①

A高校<センター校>					
3年	1組	2組	3組	4組	5組
2年	1組	2組	3組	4組	5組
1年	1組	2組	3組	4組	5組

A高校 (B分校) <地域キャンパス>		
3年	1組	
2年	1組	
1年	1組	



24



■地域キャンパス化(分校化)

項 目	地域キャンパス
現状	長野西高校中条校(平成21年) 篠ノ井高校犀峽校(平成23年)
管理職	副校長を配置
学校目標	独自に策定
学校運営	独自の内規等で対応
教育活動	独自の教育課程や時間割により展開
校章・校歌	異なる(独自の校章・校歌を使用)
生徒会活動	別(合同でも可)
クラブ活動	別(合同チーム可)
入卒業式	別実施
同窓会	別組織

「中山間地存立校」の基準について		
	望ましい規模 (募集学級数)	再 編 対 象
中山間地 存立校	3学級 以 上	在籍生徒数120人以下、もしくは、在籍生徒数160人以下、かつ、卒業生の半数以上が入学している中学校がない状態が、2年連続 ① 他校との統合(新たな学校を創る) ② 地域キャンパス化 ③ 中山間地存立特定校の指定 ④ 募集停止

27

「中山間地存立特定校」の基準について

○地域との協働を「中山間地存立校」を適用した学校よりもさらに強化することにより、募集定員40人でも単独で高校を存続させる道を探る。

○次の条件をすべて満たす高校は「中山間地存立校」の基準に該当した場合であっても、その例外として「中山間地存立特定校」としての指定を検討する。

- (ア) 県境に近い地域で、近隣の高校と著しく離れている。
 - (イ) 教育機会の確保の観点から高校の存続の必要性が高いと判断できる。
 - (ウ) 所在する市町村長等、地域からの支援を得ながら、高校を単独で存続する体制を整備できる。
- 28

「中山間地存立校」の基準について		
	望ましい規模 (募集学級数)	再 編 対 象
中山間地 存立校	3学級 以 上	在籍生徒数120人以下、もしくは、在籍生徒数160人以下、かつ、卒業生の半数以上が入学している 中学校がない状態が、2年連続 ① 他校との統合(新たな学校を創る) ② 地域キャンパス化 ③ 中山間地存立特定校の指定 ④ 募集停止

「地域キャンパス」及び「中山間地存立特定校」が より小規模になった場合について
○在籍生徒数が60人以下の状態が2年連続した場合には、募集停止を検討する。ただし、卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学がある場合や、将来、入学者の増加が予測される場合は慎重に扱う。なお、在籍生徒数は、地域キャンパス化から3年が経過、もしくは「中山間地存立特定校」の指定から3年が経過した時点以降の生徒数とする。

30

■再編に関する基準等
◆ここに示した再編に関する基準については、全県の「再編・整備計画」が策定された後の2021年度から適用を開始する。なお、「2年連続した場合」の考え方は、以下のとおりとする。 ○2020年度、2021年度に2年連続して在籍生徒数が上記数値を下回る場合は、再編対象としない。 ○2021年度、2022年度に2年連続して在籍生徒数が上記数値を下回る場合は、再編対象とする。以降2年連続して下回った場合は、再編対象とする。 ◆在籍生徒数は、「学校基本調査」に基づく5月1日現在の数

■旧第1通学区の再編計画の方向性
【現況・課題】 ・中学校卒業者数が2030年には2017年の62%まで減少する見込みであり、県全体の減少率75%と比較しても減少が著しい状況にある。 ・下高井農林高校は募集定員が80人と学校規模が縮小しているが、この地区唯一の専門教育の場としての役割を担っている。

■旧第1通学区の再編計画の方向性

【再編計画の方向性】

- ・学校規模のさらなる縮小が想定される中においても、中学生の期待に応える普通教育と専門教育の学びの場を確保していく必要がある。
- ・この地区の今後の急激な少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、地域キャンパス化等の方策により、2校が連携した学びの場を構想していくことが考えられる。

「高校改革 ～夢に挑戦する学び～」のスケジュール

想定時期	プロセス
2017年11月	『県立高校『学びの改革 実施方針』策定に向けて』
2018年3月	『高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針(案)』
9月	『高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針』
2019年9月	すべての地区で「高校の将来像を考える地域の協議会」を設置完了
2020年3月	『再編整備計画（一次分）』策定
2021年3月	『再編整備計画』確定
2030年3月	長野県の高校教育が変わる 長野県が変わる